

山行番	NO. 1869
日時	2020/6/6 (土) 晴れ
山域	八ヶ岳・西天狗岳 (2646m) 西尾根
コース	長泉5:00-唐沢鉱泉8:05-第1展望台9:49-西天狗岳11:00 (昼食) ~50-東天狗岳 (Iのみ)-中山峠13:02-黒百合ヒュッテ13:06~18 -唐沢鉱泉 15:04-「たてしな自由農園」-長泉
標高差	上り 唐沢鉱泉1840m ~ 西天狗岳2646m=約806m 下り 同上
快適度	5 (5段階評価) = 藪なし、天気 晴れ、暑くも寒くもなく冷風あって快適
参加者	GT、KH、HY、IK、GM、=5名

## 化粧を落としたハッは・・・

4、5月は緊急事態宣言の発令もあり、私は4月から5月下旬まで山行を控えていたので、久しぶりの山行 (先週の5月30日に足慣らしで越前岳に登山) である。

今回の西天狗岳・西尾根は2回目 (1回目は2018年10月に登頂) であり、久しぶりの八ヶ岳 (山梨県) である。静岡県と山梨県は相互乗り入れ認めているので、丹沢 (神奈川県) に行くときのような県境越えのやましさはない。

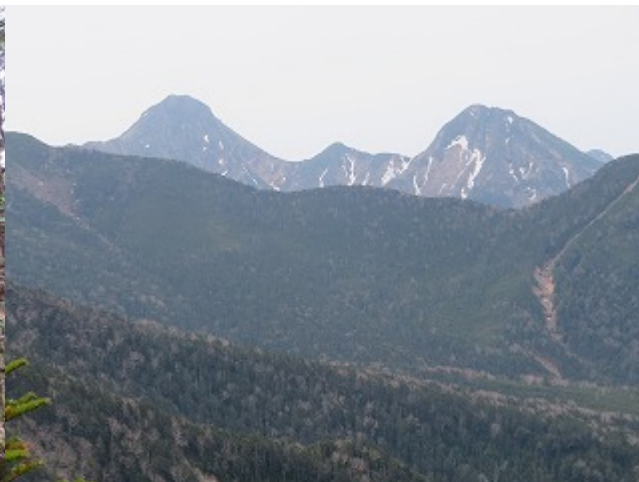
私は4時半に自宅 (裾野) を出発、途中IKさんをピックアップし、5時少し前にGT宅に到着。GT車に乗り換え5時に長泉を出発、5時30分に富士ICでKHさんとHYさんをピックアップ。道路の渋滞もなく、予定よりも早く8時前に唐沢鉱泉に到着。

8時前だということに関東圏や中京圏からの車が駐車場や道路沿いにいっぱい止めてあり、さすがに緊急事態宣言が解除された影響は大きいようだ。(唐沢鉱泉も6月1日から営業再開)

唐沢鉱泉をスタートしてすぐに唐沢を渡り、西尾根に向かう急登を登り始める。雪もなく、最近雨も少ないのか、コケも乾燥しており、いつもより登山靴が滑ることもなく登り易い。若い単独の女性に追い抜かれた。結局、この方とは唐沢鉱泉までズッと前後した。



西尾根下部



化粧が落ちたハッ

今回はHYさんが初めてスマホに山地図をインストールして、ルートを確認していたが、スマホでは方角がうまく確認できないようで、方位磁石も持参していないとダメではないということになった。(注・1)やはりスマホは便利だが、電池が切れると全く役に立たないので、登山には地図と方位磁石は必須だ。(注・2)

しばらく急登を登ると西尾根に取りつく分岐点に到着。久しぶりの本格登山のせいか、朝が早かったせいか、かなりバテバテである。

ここから先は女性陣とIKさんが先行して進み、私とGTさんは少しペースを落として、後ろをついていくことにした。

第2展望台まで、GTさんの後ろをついて登ったが、こんなに足が重そうなGTさんを見たのは初めであった。(さすがのGTさんも早起き、荷物の重さ、年齢には勝てないか(注・3)第1展望台では新宿からきた女性に写真を撮ってもらった。

その女性は昨日、新宿から電車で来て唐沢鉱泉に宿泊し、西天狗岳を往復してから新宿に帰るそうだ。(茅野駅と唐沢鉱泉の間は送迎車があるので、一人でも気軽に宿泊できるようだ)



第一展望台



第二展望台を俯瞰

頂上下で女性陣、IKさんと合流した。その後、西天狗岳の山頂に移動して昼食。みんな朝が早かったので、腹ペコである。私はビール2本と手製のチキンライス弁当でお腹を満たし、GTさん



から家庭菜園で取れたジャガイモときゅうりを頂いた。

西天狗岳で1時間ほどの昼食を終えた。下山は、Gリーダーから西尾根往復隊と黒百合ヒュッテ経由隊と分けようかの提案があったが、K嬢の反対で、この提案は却下された。わが会は、全会一致でないと決定出来ないのだ。(笑い)



Gリーダーが西尾根往復したいのは、往復経験がないのと、無雪期の黒百合ヒュッテ経由が、「ゴロタ石の連続」で、どうも嫌らしい。ま、それと、いささか疲れていることだった。最近、恒例の昼寝もそこに、記念写真を撮影し下りのスタート。

東天狗岳はIKさん以外は前回登頂しているの、IKさんだけが東天狗岳に登り、他のメン



バーは迂回路を通った。

黒百合ヒュッテまでは岩場の厳しい下りが続いた。登りにはほとんど積雪はみられなかったが、下りは所々残雪が残っていた。また崖崩れでロープを張ってあるところもあり、結構山が荒れているように感じた。

途中でHYさんが結構上等なサングラスを見つけた。これはHYさんがKHさんの影響（指導？）を受けて、左右、上下を見ながらバランスよく歩いている結果のように思う。



西天狗岳下り

黒百合ヒュッテではアルバイト女性（私と同郷の福岡出身）がコロナ感染防止対策のパネルを描いていたが、山小屋で2mの間隔をあけるのはちょっと無理のように思った。

私のような年配者が無症状の若者と山小屋に泊まったら、間違いなく感染しそうで、とても怖くて山小屋には泊まれない。（注・4）

朝、我々を抜いた若い女性は、余裕でコーヒーを沸かしていた。コロナウィルス感染症が早く収束しないと、日本の山小屋はみんな潰れてしまうのではないかと危惧してしまう。また、山小屋には前回来た時にはなかった太陽光発電パネルが設置してあったが、コロナの影響でパネルの投資回収が出来ないのではないかと余計な心配をしてしまった。

この山小屋は昨年暮れまで、会に在籍したT君が務めていた。本当は勤務しているうちに訪ねたかったが、それが出来なくなって残念だった。

黒百合ヒュッテからまた厳しい荒れたコケの生えた岩場を通って、唐沢鉱泉に下った。途中、唐



沢の岩に白いペンキを塗ったような光景が見られた。(注・5) 天候もよく、ケガもなく、無事に唐沢鉱泉に下山することができてよかったが、朝が早く睡眠時間が少ないせいか、かなり疲れた山



美大出身の従業員



ソーラーパネル



唐沢の硫黄の結晶



アズマシャクナゲが満開



行であった。駐車場で朝、抜いた若い女性が下山。軽のNOは「諏訪」だった。鉱泉の「アズマシャクナゲ」が見事。(注・6) 下山後、別荘地を通ると、「レンゲツツジ」が見ごろだった。途中寄った「たてしな自由農園」は、素晴らしい産直だった。諏訪南ICまで、畑に花が咲く野菜が、広



大な面積で植え付けがあった。往路でも興味津々だったので、停車して確認したら「セロリ」だった。黄色の花も初めて見た。

#### その他の記述（GT）

注・1 方法はあるようだ→→<https://otona-life.com/2019/12/28/25869/>

注・2 高度計も必携

注・3 1947年生

注・4 中山峠下でコールタール臭かった。I が小屋の方に聞いたら「木道に塗った」とのこと。

注・5 唐沢鉱泉の送迎バス運転手に聞いたら、「硫黄の結晶」といった。

注・6 鉱泉庭に「アズマシャクナゲ」が満開だった。ただ、これは移植したもの。山には「ハクサンシャクナゲが自生」している。「アズマ」が美しいが、繁殖しないようだ。

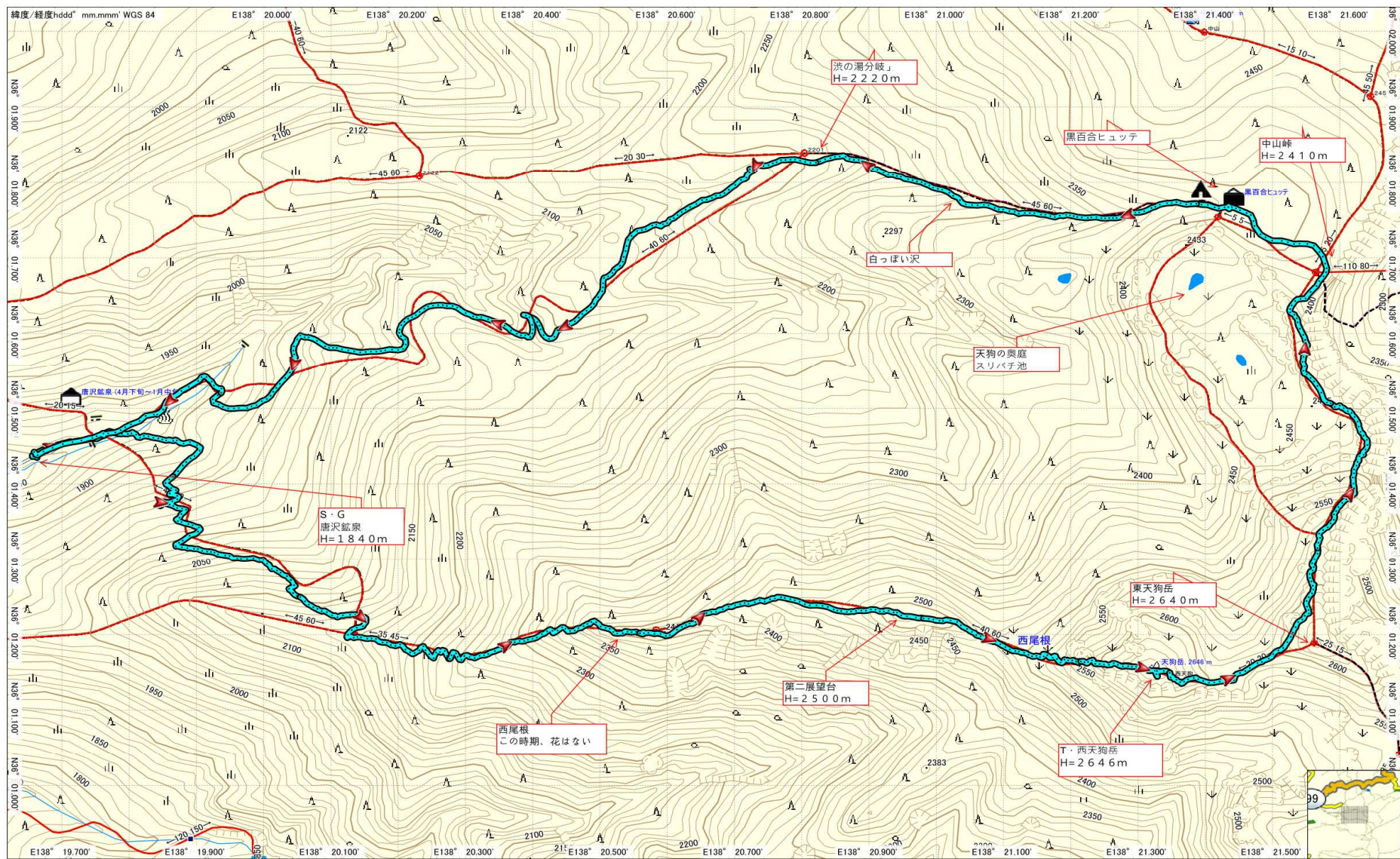


西天狗岳頂上



レンゲツツ





Japan Topo 10M Plus V3  
© Garmin/MapInfo Co., Ltd. 2014  
Garmin Corporation 1995-2014

2020/06/07 5:25:51

GARMIN